

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902561		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームあけぼのIV		
所在地	〒070-0063 旭川市曙3条6丁目1番14号 (電話) 0166-21-3177		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別 内		
訪問調査日	平成21年10月19日	評価確定日	平成21年11月25日

【情報提供票より】(平成21年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 25日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	16人, 非常勤 0, 常勤換算9.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2階建ての	全階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	有 () 円 <input checked="" type="checkbox"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 円 <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 300 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (8月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	1名	要介護2	5名		
要介護3	1名	要介護4	4名		
要介護5	6名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	53 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	くにもと病院 忠和クリニック メイプル病院 小池歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本部「健康会」・「あけぼのⅡ」に隣接し、古くから開けた閑静な住宅街にあり、あけぼのの施設では一番新しく、開所から3年半。2ユニットとも管理者が看護師の資格を持ち、介護度4と5の利用者は10人いる。重度化が進み、関連施設からの受け入れもされており、管理者ともどもケアレベルの向上が欠かせません。裏の畑で豆・芋等の栽培に皆さんが精を出している。ここからの採光もよく、広場のスペースも十分で、畳の小上がりも設けられている。厨房も広場に開放されており、常に見守りが可能になっている。事務所も仕切りがなく、各部屋を見通すことが出来、ホールから裏庭に出るドアがあり、避難経路が確保されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介助・介護に終点はないという管理者の信念の基に、職員も毎日が向上の機会を与えられているとの自覚で、困苦精励に励んでいる姿勢が見て取れる。刻々と変化する状況の気づきは、個人記録に残し、その都度ミーティングを重ねることで対応し、安全と気持ちのよい環境作りに努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 87の自己評価項目の内83項目にできていない。取組みたいの意思表示をしている。今日よりも明日と上を目指す姿勢がこの自己評価に現れている。短期・中長期の目標を設定し、達成のプロセスを明示しながら、個人の満足度を高める工夫も取っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議には、利用者、その家族、町内会長、地域包括支援センターの職員と、次第に参加者が充実してきている。会議の内容については、施設内でのヒヤリハット、拘束の発生や、目標達成の取り組みの現状、職員の教育計画、年間の行事等について多面的に情報を公開し、会議の議事録にはすべての発言を取り上げ、出席者および出席されなかった家族に配布をするよう期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 寝たきり状態が減ったとか床づれがなくなったなど、家族からケアの高さに喜びの声が聞かれる。入所時の身体状況について、管理者の目標が提示され、全職員が目標達成に努力している姿が家族にも理解されている。家族への近況報告も、理解を得るようにやさしく話をしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域密着型と大きく取り上げられている。町内会の班長を引き受けて活動の一役を担っている。開設して3年半を経過したが、地域に馴染んで溶け込んでいるところまでいっていない。高齢化に向かっている町内なので、これからは向こう三軒両隣で、お互いに助け合っていかなければならない。施設の持つ力をどのように地域に還元するのかを考え、それを積極的に発信していかなることを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	各施設独自の理念の再構築が謳われ、ユニットごとに検討しそれぞれの理念が出された。重度の利用者が多いため、まずは施設の中での安全と気持ちでの安心に重点を置いた理念になった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の共通認識から生まれた理念でもあり、常日頃の関わりの基になっている行動仕草で、家族の皆さんにも十分評価されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	推進会議には町内会長の参加を得ているが、町内の行事に施設としてどのように関わるのか考慮中である。高齢化が進む地域で、行事も少なく、外出もままならない人も増えていて、交流というところまで取り組めていないのが現状である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	厳しい自己評価は、自己に課するレベルアップの意思表示の表れであり、常に評価項目を意識している。毎日の取組みが第三者からどう見られているのか、反省材料にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護度が高い利用者が多く、運営の実態の理解がされにくい。推進会議に町内会長だけでなく、婦人部長、防災部長や福祉部長など施設に関連する役員の参加も求める。議事録は詳細に記録し、家族にお便りと一緒に配布している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との情報交換の場が密に取られていない。交渉の窓口が「健康会」に成っている。	○	市と「健康会」が密に接し、現場へ情報が伝わる体制を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1回の近況報告をしている。金銭出納帳や領収書のコピーも同封している。家族の来訪時に、日常の様子を伝え、医師看護師の検診結果を分かりやすく説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に管理者と担当職員が、家族の意見や要望を聞いている。不満苦情の訴えが出ていないが、何時でも受け入れる準備と体制は整っていて、そのことは家族にも十分に理解されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職表明後1ヶ月の猶予期間を設けている。職員のケアに対するモチベーションが高いため、離職者は少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部健康会に4つの委員会を設け、各施設から担当者を選任し、研修課題、参加人員の個別計画を立て、レベルアップに努めている。外部の講座の情報を収集し、適任者の出席を積極的に促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修時に交流を深めているが、施設同士の人的交流は行われていない。この施設は外部の研修生を受け入れるに相応しい施設である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前に、本人・家族の来訪を受け入れ、職員や利用者の行動・会話から施設の雰囲気を感じてもらい、数回の訪問を経た後に判断してもらう工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	重度の利用者が多い中で、二人ほど散歩に出られる人がいる。職員が見守りながら外出している。昼食時に懐メロを流し、咀嚼しながら口づさむ人もいて、職員も一緒に愉しそうに合せている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昼間は広場で横になる人がいて、夜になると同じ場所に別な人が布団を敷いて寝る。甲高い声を発する人に、他の利用者が見守りをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	重度の利用者の多い施設で、医師・看護師の定期的な訪問を受け、その都度計画の見直しをしている。気づきについて情報の共有を図り、その人らしい生活の保持に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日の見守りで個人記録に記載し、変化については医師・看護師のアドバイスを受けて、その都度周知徹底を図っている。介護計画は、その都度の見直しを適時行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	施設単独で多機能な支援の活動を行うには、至っていない。余裕ある人的配置も含め、高い潜在能力を生かして、大所高所からの取り組みが必要である。	○	「健康会」の総合力を結集して、医療・福祉への多様性のある取り組みを検討し地域支援を行なうことを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常時の訪問体制は、24時間取られている。2週間毎の訪問看護を受け、職員との情報の共有に勤めている。入所前のかかりつけ医とも連絡を取っているが、重度化が進むと、協力医院との関係が密接になってきている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に終末期のあり方についても希望を聞いている。入院か、見取りか提携医療機関と交えて、関係者が協議する体制を取っている。	○	これから現実を迎える場面で、納得のいく措置を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	難聴者・脳障害から盲目になった利用者に対しても、健常者のお年寄りと同じような話掛けをしている。法令の遵守を基本として、施設での初級研修を必ず行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にもこの言葉を採用し、何事にも本人のペースに合わせている。外出希望者が帰ってきたが、まだ外の散歩を希望したことで、車椅子に乗せる工夫をして、散歩させたこともある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入は職員と外出できる利用者の仕事になっている。調理も一緒にし、時には味付けも行っていて、楽しい雰囲気作りになっている。家族が来訪し食事介助を行ない、BGMで流れる懐メロに反応しながら、愉しく口を動かしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を設定しているが、夜間の利用にも対応している。風呂を嫌う人もいて、1週間も入らないこともあるが、強制することはない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生きがいを考慮し、充実した日々を送れるように努力している。限られた職員の数で、更なる工夫が求められる。	○	介護度の高い利用者が多くなると、一時的にも見守り中にも瑕疵が発生する可能性がある。家族や町内に理解者を求め、散歩や手芸、童謡の合唱など外部の力の導入の検討を期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	裏の畑での作業に関心を持っている利用者もいる。次第に外出を嫌うようになり、数人に限られてきた。外出する利用者には職員は後ろからの見守りをしながら、ついて行く。食材購入は、車を利用している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。ホールのドアを引くと穏やかなメロディーがながれ、出入りを察知することが出来る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	重度の利用者も居り、安全に避難できるように地域の力もお願いしている。1階の避難経路が確保され、地域の支援が可能になった。	○	2階の避難階段の設置がこれからの目標になります。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の調理は職員が行い、好みや味付け・軟らかさや量についても理解している。水分の摂取量は個人の記録に残し、適切に対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所も事務所も何時でも入れる場所として広場に解放されており、いつでもどこでも見取れている。広場のホールは十分なスペースがあり、一角に畳の小上がりが設けられている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇を備え、周りに家族の写真が貼ってある人もいる。大きな家具類の持込はなく、十分なスペースを確保して、こじんまりとした居心地のよい空間になっている。		

※ は、重点項目。